

平成 21 年第 3 回定例会(第 3 日 9/10)

14 時 54 分開議

●副議長(高木明) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第 1 の一般質問を継続します。

長谷川大議員。(拍手)

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 通告に基づいて質問をさせていただきます。(「ガチンコって何」と呼ぶ者あり)知らない人には教えない。(笑声)

先ほど、先番議員さんの質問の中で、船橋の 50 年、100 年の計を誤るというお話があって、視点は同じ方向で行くのかどうかは別として、そういうことを聞きたいなと思ったのが、きょうの趣旨でございまして、前回の定例会では、まだ市長お疲れのところをぼこぼこにされちゃうような感じの質問で、言いたい放題言われていて、いいのかなと思っていて……(「すっかり同情しちゃったの」と呼ぶ者あり)はい。で、もうさすがに選挙が終わって、体も休んで海外でリフレッシュして帰ってこられたわけで、(笑声)海外で新しい発想で市政についても考えるところがあつたんじゃないかなと思いますので、いろいろとお伺いをしてみたいと思います。

ここに丸数字で 4 項目、項目で全部で 5 つあるんですけども、全部一つ一つをどうこうというのではなくて、総合的に事例を挙げながらお話を私のほうで勝手にさせていただいて、そこを含む含まないは別として、市長のほうで何か お考えになっていることとお話しただければなというのが今回の趣旨でございまして。

まず、子育て支援について。

この間、新聞の記事になっておりましたけども、北総開発鉄道の経営支援の中で、経営支援と言うんでしょうか、運賃を下げるための自治体の補助という話があって、その中で定期代の料金を下げるために自治体が税金を使うという話がありました。市長は以前から、北総だけではなく東葉高速も考えてもらわなきゃね、ということ、この議会等でも答弁をしていたわけですからけれども、政治的な判断をなさったんだと思います。

このことについてはとやかく言う筋合いではないんですけれども、北総の通学定期代を下げるために税金を投入するのであれば、東葉高速の定期代を下げるためにも何か手だてを考えていただくとか、うちの娘は市ヶ谷まで通っているわけですけど、定期代がばかにならないので、それも何とか補助していただきたいなんていうふうに思いながら、通学定期代の金額を下げるということはどういうことかというのを考えさせられる事柄でありました。

それはそれとして、私は、子育て支援については、選挙が終わりましたからいよいよ考えていきたいなというふうに思っているのは、僕が考えていてもしょうがないので、応援しますからぜひやっていただきたい、頑張ってくださいというの、私も市長が当選なさってからずっと言わせていただいている保育園の民間委託でありまして、これをいじらないことには、子育て支援の費用を捻出することもなかなかままならないと思っておりますので、この際、やるぞと言っていただければいいと思いますので、この辺について子育て支援全般の中で、待機児童の話が毎回毎回出の中で、子育て支援の費用を、予算をどうやって捻出するか、あるいは保育の質をよくしていくためにどうするかということをお話しいただければなというふうに思います。

それから、環境行政について。

ごみ処理と括弧で書いてありますけれども、ごみの有料化というのは常にお話が出てくるものでありますけれども、北部清掃工場の建て替え、南部清掃工場の建て替えなんていうのがこれから控えている中で、船橋のごみ処理に関する費用をどうするかということ、どうお考えになるのかなと。

既に焼却灰を秋田のほうに運んでいっている事例がありますけれども、昨年、秋田のほうに私どもも視察をさせていただきましたけれども、ああいうのも以前から当たり前のように行われているわけでございますけれども、果たしていつまでも秋田に続けて焼却灰を運んでいくべきなのか、同様の事業者がひょっとして出てきていないのかとかということ、全体的にごみにかかわるさまざまな部分を一度精査をしてみて、お金の問題を少し考えて、市民の負担をなくすようにすべきではないかというふうに思っております。

これもまた以前から言っている、あとは収集業務の民間委託であります。これも毎度毎度民間委託を言うと、民間業者が倒産した場合困るだとか、民間業者がストライキをやったら困るとかというふうに、そういう理由で、民間委託はできないんだという理由づけをすることがあるんですけれども、これも実際には、そんなことというのは、何か1回トラブルがあったときにも、ちゃんと組合で頑張っておみ収集をやってくれた

わけですから、そういうことも進めていくべきではないかというふうに思っていますので、このごみの取り扱いに関しても、将来どういうふうを考えていくのかということをお聞かせいただければと思います。

それから、まちづくり。括弧で、都市計画についてと書いてあるんですけども、済みません、僕は認識が間違っていましたので、この都市計画という文言は消していただきたいと思います。何かテクニカルなことは都市計画というふうになるんでしょうけれども、私のイメージしていたことがちょっと間違っていたようです。ここは、この町をどうしていくかということをお聞きしたい部分なんですけれども、特にというか、例示をさせていただきますと、市場をどうするか、市船をどうするか、あるいは船橋競馬場をどうするか、そういうことから始まって、市内の各駅前の整備といったらおかしいんですけど、まちをきれいにすること。

僕は、ここに地元の先生方がたくさんいらっしゃいますけど、西船橋の駅というのはすごいポテンシャルのある駅だと思っていて、西船橋の駅をもっともっと違う形にしていくべきじゃないかと思うし、北習志野をどうするかということも、もっともっと考えていかなきゃいけないんじゃないかというふうに思っています。

下の学校教育についてに関連する話なんですけれども、市船をどうするかと先ほど言わせていただいたのは、県立高校がもう既に統廃合が始まっていて、旭高校かなんかがなくなってというところで、あそこに市船を持っていけばいいじゃんという話が随分出ているんですけども、私もその案に全くもって賛成で、と同時に運動公園の整備——整備というか運動公園の改築ですか、作り直しをしたりとかということも含めてということがあってしかるべきかなというふうに思っています。

それから、次の教育についてですけども、生涯学習について。これは今度の土曜日、日曜日、お祭りよろしく願います。11月の21、22、23も、うちのほうのお祭りでございまして、県の民俗無形文化財だか何だかに指定されたわけでございますけれども、こういった文化とか伝統というのを大事にさせていただくことと、それ以外に生涯学習と言われるさまざまなものがあるわけですけども、何かお金のかかるものばかりが多くて、お金が入ってくるようなことと いうのが1つもないのがどうも船橋市の生涯学習のような気がして、船橋市の生涯学習はどうも金食い虫だというふうに感じています。やり方次第でもっともっといい生涯学習の方向というのがあるんだと思うんですけども、それも市長が考えるものがあつたらお話をいただきたいなということです。

それから、学校教育については——学校教育についてというよりも、船橋の学校教育全体について語っていただきたいなと思っているんですけども。特に僕が気になっているのは、先ほど申し上げた高等学校がもう統廃合が進んでいるという中で、小中学校もやがて統廃合すべき時期が来るんだと思っているんですね。ところが一切手をつけていないのが現状で、例えばで言うと、うちのほうの三山中学校と三山東小学校と隣り合わせであるわけです。あんなのくっつけちゃってもいいんですね。何も小中学校は小学校同士の統廃合とか中学校同士の統廃合じゃなくて、小中一貫校にしちゃって運営をしていくというのも1つの方法だと思うんですけども。三山東小って大分小さくなってきているし、三山中も大分小さいしという中で、土地の隣同士というのは非常にいじりやすいものだと思うんですけども、そういったことを考えていただくとか。

この間、勉強会で葛小の建て替えの話が出ていましたけれども、あのときに、うちの勉強会で僕言わせていただいたんですが、西船の駅から至近のところにあるという中で、ただ単に学校の校舎を建て替えるという発想しかできないこの役場の体質がえらく気になったんですけれども。建て替えるんだったら、高層で建てて、複合の施設でもいいし、あるいはどこかと、葛小も葛中とつながっているかなんか、隣同士かなんかですよね。そうすると土地の有効活用ということは駅至近でしやすい中で、市営住宅というのか、市営住宅の概念じゃなくて、東京なんかでは区民住宅というのと区営住宅というのを区別しているみたいですけど、いわゆる家賃補助をする一般の所得制限なんかのない若年層を引き入れるための公営住宅の設置ですとか、そういうことを考えるだとか、市内の土地をさまざまに有効に活用していくということも大事だと思っていました。

なので、先ほど、市場どうするのという話とか、競馬場どうするのという話もさせていただいたんですけども、市場に関しましても、もう厳しいんだという中であれば、それこそ東京都知事とお会いになって、市場の合併といったら言い方がおかしいですけど、そういう表現というのはないのかもしれないけれども、船橋の中央卸売市場にいる皆さんを、何とか築地から移転する東京都の中央卸売市場に移転をさせていただくようなお願いをするとか、従来の方法でがんじがらめに縛られ 発想ではなく、これからの船橋の10年、20年先をどういうふうに考えて、この3期12年の公約を云々という方々がたくさんいらっしゃるわけですけども、それを覆してでも再びここに戻ってきてやろうという気持ちを何か表現をしていただきたいなということで今回質問させていただいていますので、私が言ったそれぞれの項目は一例にすぎません。だから、こんなことというイメージでもっと大きい意味でお答えいただければ結構だと思いますし、どうぞ時間に制限なく好きなだけしゃべっていただきたいなというふうに思います。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

[市長 登壇]

●市長(藤代孝七) 長谷川議員のご質問にお答えをいたします。

選挙で大分疲れたから、6月の議会には質問を余りしなかったということでございますけども、そしてまた、その後デンマークのオーデンセのほうに出向きまして、リフレッシュということではございませんけども、(笑声)確かにそういったことは、これはもう私も国際交流という姉妹都市を結びまして20年という、この友好関係の中でございましたから、極めてこのたびの訪問は有意義な訪問であった、このように思っております。

と申しますのも、ヤン・ボイエ市長が私ども市議場におきまして記念スピーチをいただきました。ヤン・ボイエ市長にいたしましても、船橋市の市議会の中でスピーチができ得たということは、極めてありがたかったということでございまして、一層友好関係が深まった、このようにも思っております。

そして、今まででは前任のアンカー・ボイエ市長、そしてこのたびヤン・ボイエ市長でございますけども、私はお二方とも2度お会いしてございますけども、そういったことの中に、このたびの訪問のときにはヤン・ボイエ市長みずからのサマーハウスでございませうか、日本でいえば別荘だと思えますけども、そちらのほうに昼食のお招きをいただきました。そして、海を見ながら、そして水平線かなた先に遠く見えるわけでございますけども、本当に波一つない穏やかななぎといえますか、そういった中でのお話でございましたけども、その先に富士山があればもっとよかったのかな、(笑声)こういった冗談も言えたわけであります。

そして、実はお子さんがお二方いらっしゃるんですけども、里子をもうけていた。里子をもうけたというのは、デンマークではそういったことは随分あるというふうに言われていましたけども、しかも黒人と言ったら失礼かもしれませんが、エチオピアのお子さんでありまして、みずからのお子さんとは全く違った形でございましたけども、その家族の触れ合いといえますか、本当に家族になり切っている姿を見て、ああ、すばらしいもんだなと感心をいたしましたわけであります。

と申しますのも、これはやはり高負担高福祉とよく言われているかもしれませんが、そういったことの中に、そこまでして、里子をもうけてまで、そのお子さんの幸せを願うというそういった姿というものは、これはやはり考えさせられた一面であったわけでございます。

私どもの興松議長にいたしましても、その里子のお子さんと非常に親しくしてごさいましたから、私どもも本当にうれしかったわけでごさいますけども、上のお子さん2人にいたしましても、本当に私どもと親しく触れ合いさせていただいたと同時に、そういったことをしていただいたということ、私どもとオーデンセ市との間に一層な友好関係が深まったと同時に、これは以前から言われていますように、オーデンセというのは極めて環境に優しい町であるということでございまして、自転車道が私が行った当初からもうできていたということ。通常の道路、そしておりまして自転車道、それから奥に歩道が備わっている、そういったところでごさいますから、極めて自転車に対します優先度が高いということ。そういったことがこの船橋を顧みまして、果たしてこれができ得ればというようなことも考えますけれども、なかなかそこまではいかないのかなと。ですから、そういったことを考えますと、やはり自転車というものがいかに有効なのかということ。ですから、1つとれば、サイクリングロードといいますか、そういった道路も必要なのかなというふうには思いました。

それから、ご案内のとおり、風がしょっちゅうあるというようなことでごさいますので、風力発電が主流といいますか、そしてもう1つは、このたび驚いたことは、麦わらですね。麦の収穫をした後のわらを、これを日本でいいますと、北海道に行きますと牧草を束ねて束になっています。丸くなっています。それじゃなくて、1つの 梱包が500キロ、これが大型トレーラーで発電所のほう、バイオ燃料というんですか、そういったことを、運びまして、そこで発電をしているということ。これには私もびっくりいたしました。その中の機械というものは私どもも聞きはぐりましたけども、日本から入っているように聞いてはございまして、そういったことをしてまでも環境に優しくしているというオーデンセ市であったわけでありまして。

ですから、焼却残渣が出てまいりまして、以前の焼却残渣が山積みになっていると。そう言っても、そこで昔でもその残渣というものは、極めて廃棄物といたしましても安全性が高いということでございしましたが、このたびのこの麦、これに対しましては全くもって害はないというような、そういうお話を承りまして、これはひとつ見習うべきだとはいいながら、日本ではそういった材料といいますか、麦をつくっている方——これは米ではだめなんだそうです、稲わらでは。そういった話は承りましたけれども、そういったことがあったということで、話が、前置きが長くなってしまいましたけども。
(笑声)

それでは、子育て支援のほうからお話をさせていただきたいと思っておりますけども、確かに長谷川議員がおっしゃいますように、私自身も保育園の民営化といいますか、これは私も考えていたとおりでございまして。市立保育園の民営化につきまして、関係

者の理解を得ながら、お預かりをしております子供さんの影響にでき得る限り配慮して、実施すべき課題と思っております。

この問題は、本市の保育行政の現状と課題、待機児童対策、これからの公立・私立保育園のあり方など、総合的な見地から検討しなければならないものでございます。現在、担当課におきまして、さまざまな角度から検討しているところでもございますが、お預かりしております子供さんへの影響にできるだけ配慮した民営化の方法やスケジュールなどの考え方がまとまりましたら、関係者の皆様を初め広くご意見を伺いながら検討を進めてまいりたい、このようにも思っております。

それから、ごみ処理でございますけども、この件につきましては、環境部の取り組み方針のヒアリングを行った上で、今後この清掃工場等の施設整備に莫大な費用が見込まれる中で、ごみ処理に係る費用をできるだけ抑えていくため、収集業務の民間委託化、ごみを減らすための分別の推進、ペットボトルの収集方法等を総合的に検討することを、この間プレゼンテーションのときに申し上げたところでもございます。

そして、ごみ処理する場合に最終の焼却残渣というもの、これに対しまして、通常でございましたら、やはりその自治体の自治区域内に持つべきということになってはございますが、私どもは、先ほどお話ございましたように、秋田県の大館と兵庫県のほうに行っておりますが、私自身も平成9年に市長になりまして以後、2回ほど大館のほうを訪問させてもらっております。そして、大館の市長さんとお話をいたした中、この船橋とのいろいろな交流の中でもちまして、船橋の海産物を大館のほうに何かございませんでしょうかと。これは私、以前に議会で答弁をいたしたと思っておりますけども、そして、そのかわり船橋市さんから来るこの残渣というものは、将来にわたって保証いたしますよと、大変ありがたいお言葉をいただいているところでもございますし、そしてまた、その処分をいたしております同和鉱業でございますか、その会社のほうにもお邪魔させていただきまして、要するに他の自治体から来ます残渣、それをもう一遍洗い直して、害のないようなことにして、そして処分をしているというその姿を見ておりました、大変私どもからいたしますれば、今後ともひとつよろしくということで帰ってきてはございますが、これはやはり自治区域内にないということになりますと、そういったこともお願いに上がらなければならない、このようにも思っております。

そして、排出量に応じた負担の公平化という観点、これからいたしますと、やはり長期的には家庭ごみの有料化といえますか、そういったことについても検討していかなければならないのかなということをお話をいたしたところでございます。

そして、次はまちづくりということでございますけども、先ほどいろいろご指摘がございました。確かにこのまちづくりの考え方でございますが、私としてもこれまで次の世代によりよい形でもちまして、この船橋を引き継ぎたいという考えで市政に当たってきたつもりでございます。確かに都市計画の面言えば、理想としては、この狭隘な道路、町なかには住居が密集いたしております中に都市計画道路が走っているといえますか、こういった道路を改修し、市民の皆様がゆっくりと歩けるような歩道をくまなく整備したり、緑豊かな公園を市街地の中にもっともっとふやしたりと、いろいろなイメージがあるわけでございますが、現実には、これまでの船橋の歴史の中でつくられた現状や財政的な面もございます。一足飛びに進めるということはなかなか難しいのかもしれませんが、何とかこういったことも実現をしていきたいというふうには考えているところでもございます。

そしてまた、その時代その時代にできることをしっかりとやることは私は市長の責任であると思っておりますし、海老川上流地区、先ほどいろんなお話がございましたけども、また山手地区、これらに対しましても将来に向けた取り組みというものをしっかりとやりませんと、これからの船橋の都市像を可能な限り大きく前進させ、理想に近づけていきたいというふうには考えてもございますので、一層のご理解をいただければと思っております。

そして、次に生涯学習についてでございますけども、確かにこの生涯学習でもちまして、今多くの皆様方が公民館活動等々、あるいはまた市民大学校で学んでいらっしゃるその姿でもちまして、いつまでも健常でもちまして、そういった姿でいただけるというのが、これは私どもの理想であるわけでありまして、まさしくこのたび生涯学習の充実ということも私どももうたっているところでもございますし、市民大学校の一層の充実を図ってまいりたい、このようにも思っております。

今、まさに団塊の世代が大量に退職いたしまして、自分の住む町で過ごすときがふえている状況もございます。少子・高齢化が進む中で、生涯学習は個々の市民の生きがいづくりや学習の場ということではなく、市民相互のコミュニティーを新たにつくるという面でも大切であると考えております。ですから、これを進めていく手法というものはいろいろとあろうと思っておりますけども、施設の効率的な運用など、改善できることは改善しながら、より多くの市民の皆様にご利用いただけるよう、内容についても工夫してまいりたい、このように思います。

それから、学校の統廃合ということもございますけども、このたび高根台第一小学校の例を見ましても、地域にとっても学校の統廃合というのは非常に大きな影響がございました。基本的には子供たちの教育環境をいかに確保するかということになります

けども、これは教育委員会の考えを十分に確認しなければと考えております。また、児童生徒数の減少によって使用しなくなった教室等の施設、仮に統廃合を行った場合の利用については、市の施策を踏まえて教育委員会と相談をして進めてまいりたい、このように考えております。

確かに、この学校というもの、それぞれの歴史のある中にあるわけでありますから、そこを卒業した皆さんが、果たしてみずから卒業した学校が消えるというようなことになってまいりますと、極めて重大な問題になってくるというふうに考えておりますし、そういったことを踏まえた中にも、やはり小中一貫校とか、そういったことでのことは、これは教育委員会のほうでやっていただけるものだろうと思っておりますけども、そういったことになりましたれば私どもも応援してまいりたい、このようにも思っているところでもございます。

そしてまた、先ほど文化の継承というなお話がありました。確かに、この二宮神社七年祭りはことしの11月でございますが、今週の土曜・日曜、湯立て祭ということでもちまして、二宮の氏子の皆様方が盛大なお祭りが行われているようなこと、そういったことの歴史というもの、文化の継承というものも極めて大事なことでございますし、船橋市には海がございますし、あの水神祭一つをとりましても大変立派な祭礼であるわけでありますし、この海の豊漁、あるいはまたこの二宮神社しかり、大神宮しかり、それから西船にございます浅間神社しかりと、そういったそれぞれの地域地域にございます伝統というものも、これは守っていくということも極めて大事なことでございますので、私どもはそういったことは今後とも引き続き継承できるような、そういったことを、後をやる皆様方に引き継いでまいりたい、このように考えております。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 どうもありがとうございました。

最初のオーデンセの話と最後の二宮神社の話のような答弁が私の求めていたもので、あとは結局はこっちがつくった原稿を読んでいたわけございまして、僕は脱官僚なんていうことは言いませんけれども、この間、あるOBの方とお話をする機会があったんですけれども、今の船橋市役所は、決裁を市長に仰ぐときも3つの案を持ってくるんですけども、3つの中で市長に決断をしてもらわないじゃないと言うんです。

普通、こういうものを決裁するときって、3つの案を持ってきて3つの中から選んでもらうんですけども、3つの中からもう既に職員が、これはこういう理由で難しいんですとか、だめです。これもこういう理由で難しい、だめですということを言って、結局は職員

が1つの案だけを決めて持ってくる。それで、しょうがねえなあと言って市長が決裁をするというような話も聞きまして、それが本当かどうかは知りませんが、もう、好きなように僕はやるべきだと思うんですよ。市長が自分で、職員がだめだと言っても、そうじゃねえだろうというのを言い返すべきだと思うし、職員が市長じゃないんだから、ちゃんと3つ持ってこい、おれが決めるんだからというような形をぜひとっていただきたいなというふうに思います。僕は、職員の方が悪いというのではなくて、仕事の仕方が違うんじゃないかというふうに思っています。

くどいようですが、別に脱官僚とかということを使うんじゃなくて、もちろん職員の方との信頼関係ってあるんだと思うんですけども、今のような状態というのは、信頼関係じゃなくて、単になめられているだけだと思っているんですね、僕は。だからこそ何かおかしいんですよ。

うちの会派でもこの間も言っていたんですけども、まるで刑務所のような役所だと。犯罪者がいっぱいいるわけですよ。それがいけないと言うんじゃなくて、これはもうしょうがないのかもしれないけれども、何かおかしい。絶対おかしいんですよ、この役所は。だから、もっとビシビシむちを入れて、きっちりした仕事をぜひしていただきたいなと思います。

僕は絶対、市長が自分の色を出したほうが、この役所は絶対いい役所になると思っています。（「本当だ」と呼ぶ者あり）下の判断能力のない人たち——市長は公選の市長さんですからね。我々も公選の議員なんですよ。だから我々と一緒になって何かを進めていったほうが絶対いい。職員というのは何の責任も持ちませんから。（予定時間終了2分前の合図）そういうところをすごく感じている昨今なものですから、ちょっと言わせていただきまして、ぜひこの4年間いい仕事をしていただきたいなと思いますし、そのためだったら、保育の民営化をすれば僕は何でも応援しちゃいますし、ごみの収集業務の民営化と言えば何でも応援しちゃいますし、学校給食の民間委託を進めてくださったあのときのあのスピード感とパワーで、ぜひいい仕事をしていただきたいと思います。

今の職員の方は、先送り先送り、それから自分が責任を負わない、それから自分たちが戦わない、そういう状況になっていますので、あっち側というとなんなんですけれども、話せばわかる人たちの集まりですから、ここは、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ありがとうございました。（「話せばわかるんだね」と呼び、その他発言する者あり）

